

## Enjoy Study プロジェクト ～力を合わせて一つの大きな絵を作ろう！～

【メンバー】 [学生] 加藤 朝子/城前 花帆/佐藤 康揮/櫻田 夏央/荒井 秀俊/仲本 麗  
[担当教員] 小松 一保/小田 将之

### 【背景】

前期の活動から、以下の3点を課題として挙げた。

- ①行動の切り替えを早くできない。  
⇒時間を決めて、次の作業に取り組むように説明しても、辞めないで遊び続けている児童が多く見られた。
- ②話を聞くまでに時間がかかる。  
⇒大学生が話しているときに注意すると静かになる児童がいる一方で、注意を聞かずはしゃぎ続ける児童もいた。
- ③協力して何かを作る経験の不足。  
⇒終始個人の活動に専念していて、他の児童とのコミュニケーションを図るような協調性があまり見られなかった。

以上のことから、私たちが活動を通して児童に身に付けてもらいたい理想的な姿として以下の3点を挙げた。

- ①行動の切り替えを早くできるようになる。
- ②学生の話をもっと早く静かに聞けるようになる。
- ③協力して物事を行えるようになる。

### 【目的】

工作をすることで、以下の2点を達成できるように心がけた。

- ①集団で協力して活動し達成感を得ること。
- ②創作の楽しさを知ること。

### 【概要】

学童クラブ（第2、第3風の子クラブ）に通う八幡小学校2年生の児童21人を対象に活動する。

### 【プロセスと成果】

第6・7回 ハロウィン輪投げを作って遊ぼう！

ねらい：身近なものを使って、協力しあいながら工作をする。

⇒身近なものとしては魔女の帽子的芯にはペットボトルや紙コップが使われていて、家でも作れるような手に入りやすい物を材料にした。

内容：帽子的やステージにハロウィンに関する絵を描く。（第6回）

絵の完成とテーブルごとに作った輪投げで遊ぶ。（第7回）

成果：①自分なりに工夫して工作できていた。

⇒的やステージに大学生が用意していたハロウィンの見本だけでなく、友達と話し合っただけの見本とは別のハロウィンの絵を描いたり、折り紙で形を作って貼るといった工夫が見られた。

②児童間で物の貸し借りをする際、よい声かけができていた。

⇒例えばマジックなどの用具が足りなかった場合に貸してもらおうように他の班に聞きに行くなどして、班の中で使う順番を決めて守っていた。

課題：①片付けに参加しない児童がいた。

⇒作業が終わらずに掃除に参加しない子と掃除が嫌で別の遊びをしている子の二種類に分かれていた。

②次の行動になかなか移れない児童がいた。

⇒時間の流れを黒板に書いていたが、的を完成させることに夢中で、遊ぶ時間が短くなった班が出てしまい、児童によってはせっかく作ったのに遊ぶ時間が短くなってしまった。

第8・9回 サンタの福笑いを作って遊ぼう！

ねらい：声かけをし合いながら工作をする。

⇒前期の活動では、活動の内容の説明や物の準備を学生がしていたところ、グループの中でリーダーを立て、その児童が中心となって活動することで、より児童主体となるように工夫をした。

内容：工夫してサンタの顔のパーツをつくる。（第8回）

声かけを工夫して福笑い遊ぶ。（第9回）

成果：①話を聞く体制になるまでの時間が短くなった。

⇒「みんな座ってるよ」、「静かにして」などの声かけが、児童からでたことで、今までよりもスムーズに話を聞く体制に移行できた。

②児童間での声かけがみられた。

⇒上記に挙げた互いに注意し合う声かけ以外にも、福笑い遊ぶ際に、児童間で声かけがみられた。

③児童各々が、想像力豊かに工作できていた。

⇒学生の見本がなくても、形や色使いなど、様々な面で工夫されていた。

課題：①他者の気持ちを考えないような行動がみられた。

⇒福笑いで遊んでいる際、置いた部品を動かしたりするなどして、不快になる児童がいた。

第10回 クリスマスツリーを作って遊ぼう！

ねらい：身近なものを使って、グループ全員で協力しながら工作する。

⇒第6・7回から引き続き、手にいれやすい材料をつかい、大きな物を扱うことで多くの人と協力することを目指した。

内容：装飾を作って、ツリーに飾り付けをする。

学生が作った装飾を獲得するためのゲームを行う。

成果：①片付けを積極的に行う児童が多くみられた。

⇒前期では、片付けを行う児童が限られていましたが、多くの児童が参加するようになった。

②声をかけあいながら協力できていた。

⇒材料をもって来る係や物を押さえる係など、児童が自主的に役割分担をして、協力できていた。

課題：①班で活動をせず、自由行動を始めてしまう児童がいた。

⇒やることを済ませた児童が、他の児童を手伝うのではなく、好きに遊び始めてしまった。

### 【総括・今後の課題】

前期の活動の課題から、児童の理想的な姿として設定した3点について、達成できたかどうかを総括とする。

①行動の切り替えを早くできるようになる。

⇒床で座って話をさくという環境から椅子や机を用意したことで、落ち着いて話を聞くという形ができた。

②学生の話をもっと早く静かに聞けるようになる。

⇒学生ができる児童を褒めることで、周りの児童も自発的に切り替えができるようになっていった。

③協力して物事を行えるようになる。

⇒児童主体となるような活動を取り入れることで、物の貸し借りや、声掛けを行うことができた。

また、学生側の今後の課題として

①騒がしい教室の中で複数の児童を注目させるための声かけの工夫。

②できていない子を叱るのではなく、約束事を守っている子を褒めることで周りの子も自発的に言うことを聞くようになるための声かけの仕方。

などが挙げられた。

### 【地域からの評価】

成果発表会において、地域の方々にコメントをいただいたため、一部紹介させていただく。

・学童クラブに通う小学2年生と遊びを通じていろんなことを学ばせるといのが主な趣旨で、前期で出た課題を後期で修正して、遊び方の工夫もちゃんとしていてよかった。

・身近なもので創作をして、例えば、サンタの顔を福笑いにし、クリスマスとお正月を演じたりするなど、協力しながら、子供たちの力を養っていく、大きな意味のあるプロジェクトだと思った。

・実際に一緒に遊んだりするだけでなく、協力の大切さや、落ち着いて話が聞けることなど、幅広く成果が見られていてもよいと思った。

### 【謝辞】

今回、無事にプロジェクトを成功させることができたのは、ご指導いただいた小松先生、小田先生や八幡小学校の先生方、風の子クラブの児童たちの協力があったことです。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 【その他】

#### ■年間スケジュール

前期	5月19日	第1回 「みんなで遊んで仲良くなろう！」
	5月30日	第2回 「ルールを守って遊ぼう！」
	6月13日	第3回 「動物園を作ろう！～動物を描こう～」
	7月4日	第4回 「動物園を作ろう！～飾り付けをしよう～」
	7月18日	第5回 「動物園を作ろう！～完成させよう～」
後期	10月17日	第1回 「ハロウィン輪投げを作ろう！」
	10月31日	第2回 「ハロウィン輪投げを完成させて遊ぼう！」
	11月7日	第3回 「オリジナルのサンタを作って遊ぼう！」
	11月14日	第4回 「オリジナルのサンタを作って遊ぼう！」
	12月19日	第5回 「クリスマスツリーを作って遊ぼう！」